

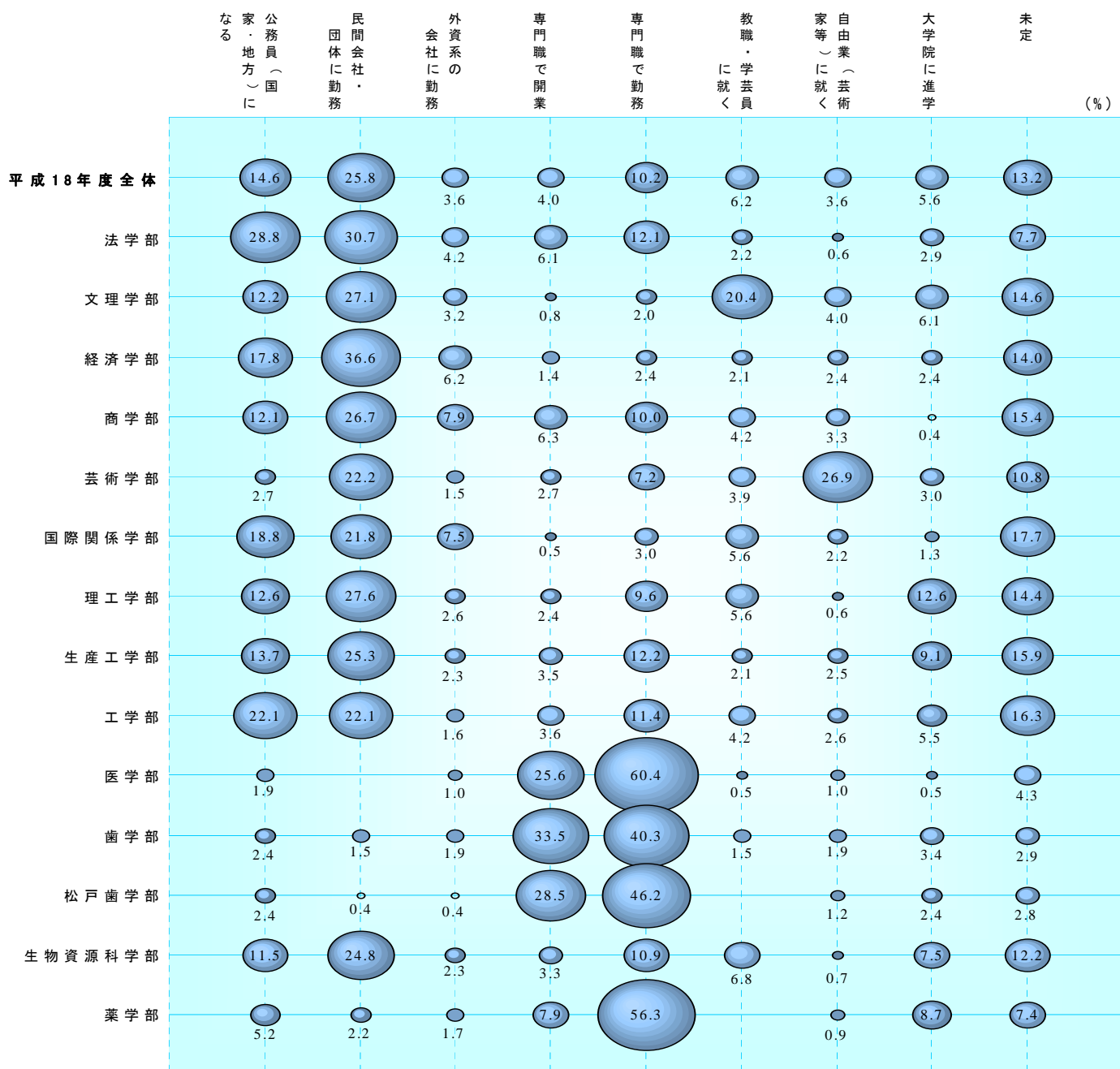
## 第8章 卒業後の進路

### 1.希望している進路(第一希望)

卒業後の第一志望は「民間会社・団体に勤務」が25.8%で最高。次いで「公務員」。歯学部系では開業志向が高め、医学部も開業第一希望が4分の1。

卒業後最も希望している進路を学生全体でみると、「民間の会社・団体に勤務」が25.8%で最も高く、「国家・地方公務員」(14.6%)、「専門職で勤務」(10.2%)の順で続いています。学部別に見ると、経済学部・法学部で「民間会社・団体勤務」志向が30%以上とやや強くなっています。医学部と薬学部では「専門職で勤務」が6割と高く、歯学部系では「専門職で開業」が3割と高め、医学部でも25.6%となっています。芸術学部では「自由業」が26.9%で最も高く、文理学部では「教職・学芸員」が高めになっています。

未定者は、1年生の17.1%から4年生の5.9%まで、学年が上がる毎に低くなっています。



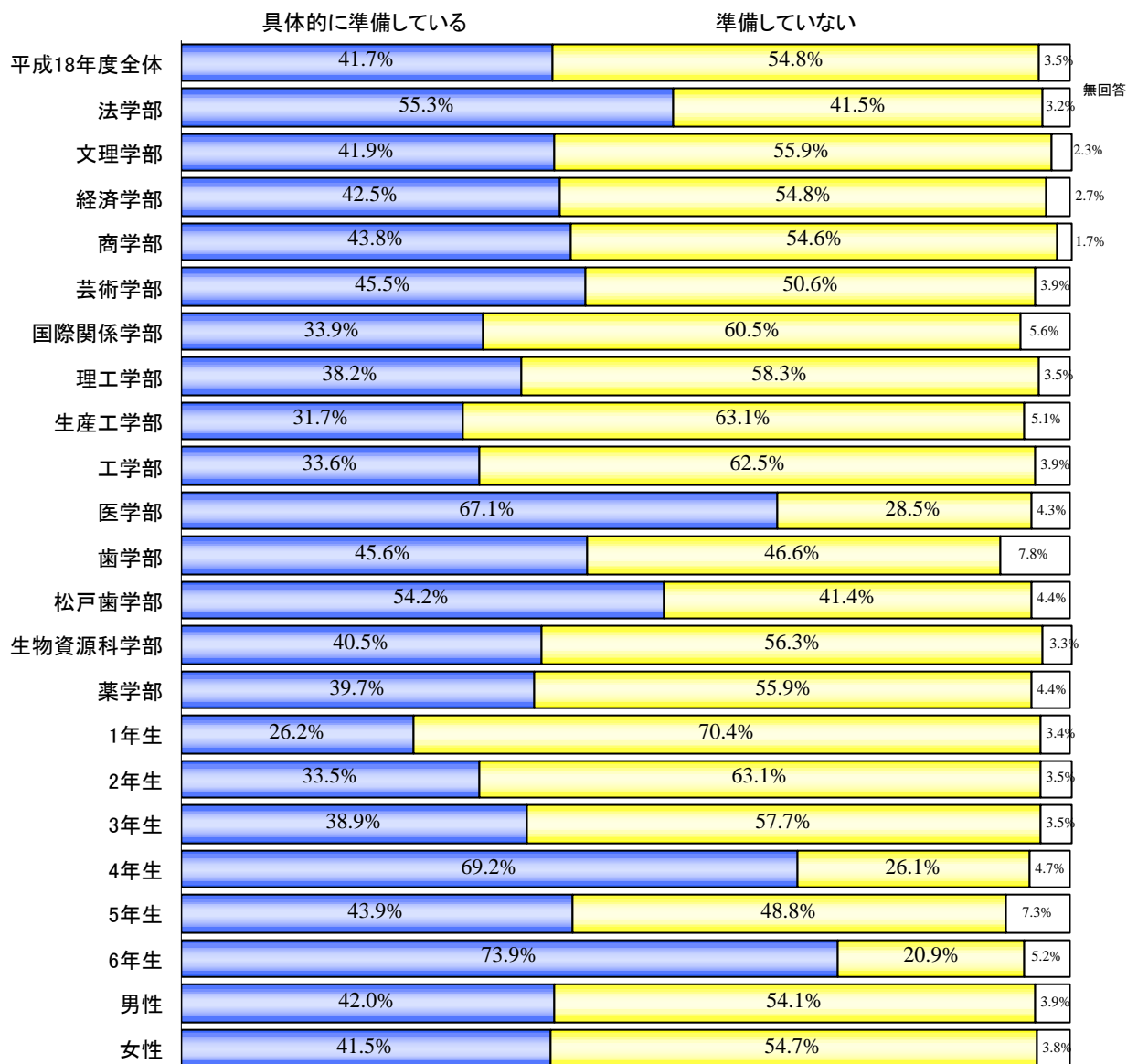
## 2.希望している進路について具体的な準備の有無

希望している進路についての「具体的な準備」は、卒業年度に一気に高まる傾向。医学部・法学部・松戸歯学部で「準備している」学生の比率が高い。男女間に差なし。

今回新たな項目として加えられた、希望している進路についての具体的な準備の有無について全体で見ると、「準備していない」が54.8%で「具体的に準備している」(41.7%)を13.1ポイント上回っています(無回答3.5%)。

学部別に見ると、「具体的に準備している」学生は医学部で最も高く(67.1%)、次いで法学部(55.3%)、松戸歯学部(54.2%)の順で高くなっています。逆に、「準備していない」学生の比率が高い学部は生産工学部(63.1%)・工学部(62.5%)と、工学系で高くなっています。

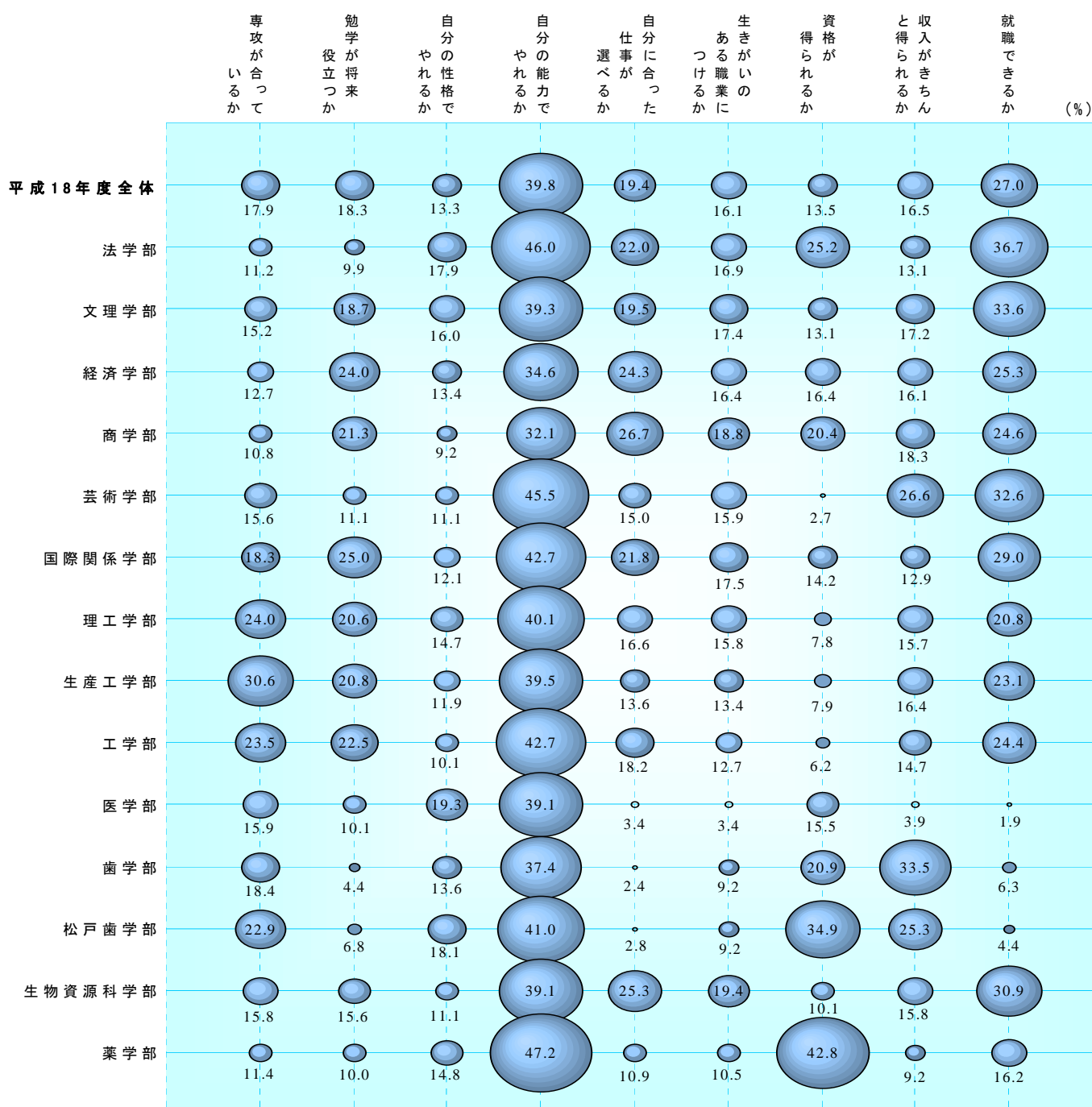
学年別に見ると、4年生と6年生では「具体的に準備をしている」が約7割と一つ下の学年より約30%高くなっています。性別による有為差は見られませんでした。



### 3.将来の不安

学生の将来の不安は、「自分の能力」が39.8%でトップ、「就職」を上回る。  
薬学部・法学部・芸術学部で「能力」に対する不安が強い傾向。

将来について感じている不安を全体でみると、「自分の能力でやれるか」が39.8%で最も高く、二番目に高い「就職できるか」を12.8ポイント上回っています。当面の就職より、競争の激しい社会でやっていくことができるのかといった、自分の能力面について不安に思う学生が多いことが分かります。全学部で「能力」がトップとなっており、薬学部・法学部・芸術学部では45%強と高めです。二番目に高い不安として、生産工学部では「専攻が合っているか」、歯学部では「収入がきちんと得られるか」、松戸歯学部と薬学部では「資格が得られるか」が挙がっています。法学部・文理学部・芸術学部・生物資源科学部では、「就職できるか」が30%以上と高めになっています。

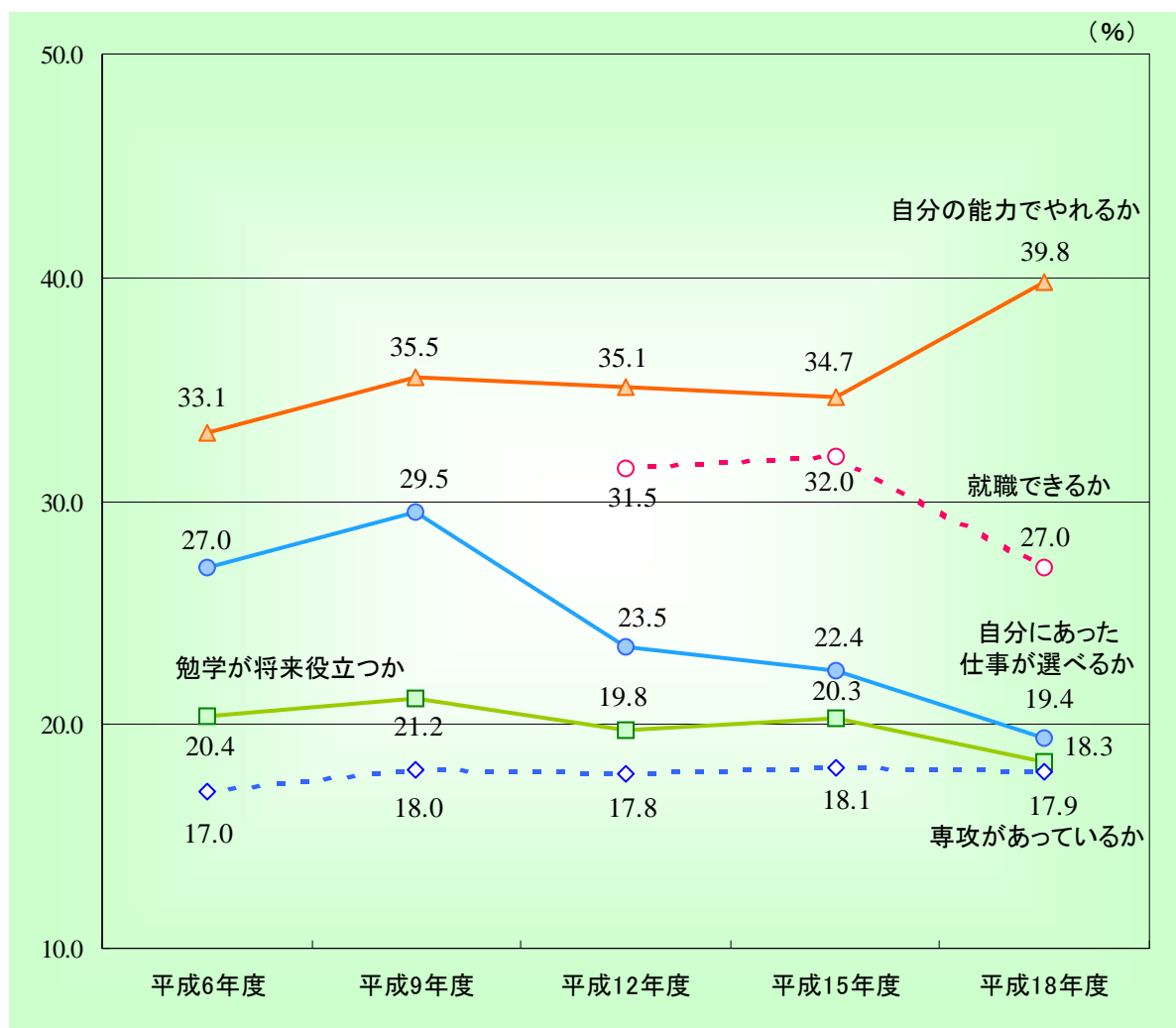


#### 4.将来の不安の経年変化

この3年間で「自分の能力」と「就職」に対する不安が乖離傾向。  
2007年問題や能力主義の強まりなどの社会情勢が影響？

平成6年度からの経年変化を学生全体で見ると、「自分の能力でやっつけられるか」という不安が常時トップとなっています。前回（3年前）より5.1ポイントと急増しています。対照的に「就職できるか」という不安は5.0ポイント減少し、両者の差が広がっています。また、「自分に合った仕事を選べるか」という不安も、平成9年度以降減少の一途を辿っています。いわゆる2007年問題で団塊の世代の退職期を間近に控え、就職そのものの不安は軽減されているようですが、反面、能力主義が色濃くなっている昨今の社会情勢を反映した結果だと考えられます。

学部別に3年間の変動を見ると、経済学部と国際関係学部では、「能力不安」の増加と「就職不安」の減少がそれぞれ約10ポイントずつと目立っており、社会情勢の変化に敏感に反応しているようです。



## 5.進路に関して得たい情報・知識

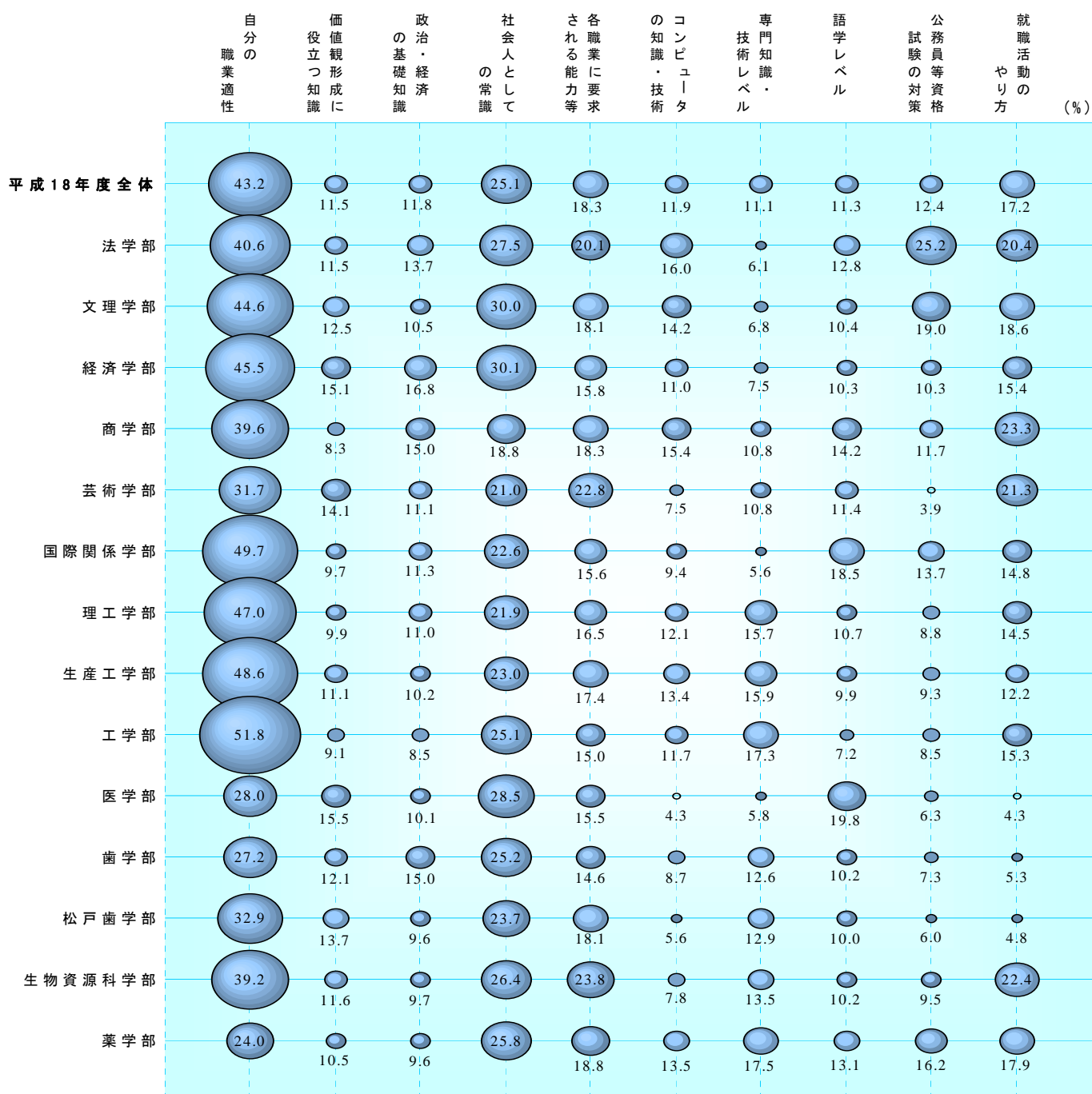
進路に関して得たい情報・知識は「自分の職業適性」が43.2%でトップ。

「社会人としての常識」が25.1%で続く。

理工系・国際関係学部で職業適性、医学部は幅広い知識に対するニーズが高い傾向。

進路に関してもっておきたい情報や知識として、「自分の職業適性」が43.2%と最も高くなっています。ついで「社会人としての常識」(25.1%)、「各職業に要求される能力等」(18.3%)、「就職活動のやり方」(17.2%)の順で続いています。

学部別では、理工系と国際関係学部で「自分の職業適性」を挙げた学生の比率が高くなっています。医学部は全般的には低いものの、「社会人としての常識」「語学レベル」「価値観形成に役立つ知識」などで他学部と比べ高めとなっており、幅広い情報・知識を求める傾向が見られます。



## 6. 進路に関して得たい情報・知識の経年変化

進路に関して得たい情報・知識は「自分の職業適性」が毎年トップ。この6年増加傾向。2番目の「社会人としての常識」も特に3年前に比べ増加傾向が目立つ。

この項目が調査に含まれた平成6年度からの経年変化を見ると、「自分の職業適性」が40%前後で常にトップとなっており、この6年間は増加傾向にあります。「社会人としての常識」も同期間に7.2ポイント増、3年前より5.7ポイント増となっています。一方、「公務員等資格試験の対策」は減少傾向にあります。

学部別この3年間の変化を見ると、国際関係学部と工学部とでは「自分の職業適性」がそれぞれ約8ポイント増（今回約50%），文理学部と経済学部では「社会人としての常識」がそれぞれ約10ポイント増（同30%）と増加傾向が顕著になっています。

